



六中生徒会だより

米沢六中生徒会
令和4年度
SDGs活動報告

「SDGs」とは？



SDGsとは、「持続可能な開発目標」という意味の「Sustainable Development Goals」のことです。2015年9月の国連サミットで採択された、2030年までに持続可能でより良い世界を目指すための国際目標です。

17のゴールと169のターゲットから構成されており、貧困や紛争、気候変動による自然災害といった、人や動物、自然などが直面している課題を解決するための道標となっています。

米沢市も令和3年度に「SDGs未来都市」に選定されています。

SDGsを柱とした生徒会活動

持続可能でより良い世界の実現を目指し、自分たちにできる事を考え、校内だけでなく地域や世界にも目を向けて活動をしています。

- ・生徒会総会での決議、各学級での目標設定
 - ・新聞エコバック作り
 - ・エコ回収活動（ペットボトルキャップ、使用済み切手、コンタクトレンズケース）
 - ・六中クリーン作戦
 - ・資源を大切にしよう月間
 - ・みんなで歩こうキャンペーン など
- 他にも各委員会の活動をSDGsに関連づけて、行っています。

新聞エコバック作り



新聞エコバックの作り方を六中HPに載せていますので、ぜひ作ってみてください。

近年、プラスチックを燃やすときに発生するガスが地球温暖化の要因になっていることや、大量のプラスチックが海まで流れ着いて汚染していることなどが問題視されています。そこで、再利用・再資源化できる新聞でエコバックを作り、プラスチックごみの削減を目指すことを目標として、**全校生で新聞エコバックづくり**を行いました。また、縦割りでの活動を通して、全校生で協力し、仲を深めることもねらいのひとつです。

新聞エコバックを作り、使用することで、ビニール袋（プラスチック）の削減に繋がります。プラスチックの削減によって温室効果ガスの排出を減らすことができますので、地球温暖化を防ぐことができます。また、プラスチックが海に流れ込むことが減るので、マイクロプラスチックなどによる海洋汚染を防ぐことにも繋がっています。そして新聞エコバックの利用は、**アップサイクル**にもなっています。アップサイクルとは、本来は捨てられるはずのものに、デザインやアイデアといった、新たな付加価値を持たせ、新しい製品に生まれ変わらせることです。

このような新聞エコバックを縦割りの班で製作することで、全校生がSDGsの意識をさらに高めたり、仲を深めたりしています。また、沢山のひととコミュニケーションを取ったり協力したりすることにもつながっています。校内だけではなく地域の方にも使用してもらったり、SDGsや六中の活動を知ってもらったりするために、地域のコミュニティセンターや塩井毘沙門朝市にも置かせていただきました。追加の依頼をいただくなど、自分たちがつくったものを地域の方に届けられて、とても嬉しかったです。

エコ回収活動

六中では、家庭で出た**ペットボトルキャップ**や**コンタクトレンズケース**、**使用済み切手を回収**しています。自分たちにできる活動を通して、社会に貢献できるように、全校生で「エコ」を意識して取り組んでいます。
ぜひ、地域の方も回収物がたまっている際は六中に届けて頂けると嬉しいです!!

<回収物のその後>

① ペットボトルキャップ

- ・ペットボトルキャップ2kgで、1人分のポリオワクチンに。世界の子どもたちを小児麻痺から救うことができます。
- ・リサイクルすると植木鉢や椅子の背もたれなどになります。

② コンタクトレンズケース

- ・日本アイバンク協会に寄付
- ・障害者の自立、就労支援
- ・リサイクルすると、リサイクル文具などになります。

③ 使用済み切手

- ・国際保健医療協力の費用の一部になります。

【例】タンザニアの看護学生の1年分の教科書代など

さらに、回収することでゴミとして廃棄される際に排出されるCO₂が削減され、地球温暖化の抑制にも効果があります。

4月～11月の成果

- ① ペットボトルキャップ 106 kg
- ② コンタクトレンズケース 9.6 kg
- ③ 使用済み切手 5.5 kg



委員会活動について

委員会活動を17のゴール（SDGs）に関連づけて行っています。いくつか紹介します。

<節電・節水の活動>

校内の様々なところに右のようなステッカーを貼っています。これは、節水や節電などを意識するためです。全校生で水や電気などの資源を大切にしようという心がけています。

<みんなで歩こうキャンペーン>

登下校の際の送迎をできるだけ無くし、徒歩や自転車で移動しようという活動です。これにより、車から排出されるCO₂が削減され、地球温暖化を防ぐことに繋がると考えました。

<記名点検>

制服や靴、自転車の鍵などに名前が書いてあるか点検する活動です。きちんと名前を書くことで、落とし物を減らし、物を大切に使うという意識の向上を図っています。



六中クリーン作戦

六中クリーン作戦とは、六中生が毎年取り組んでいる一斉奉仕活動です。地域の一員として、世界に生きる一員として、地球環境をより良くすることを目的にゴミ拾いを行いました。



<六郷地区（六中～六郷小学校あたり）>

六郷地区では空き缶、プラスチック、たばこなどがポイ捨てされていました。こんなにも沢山、ゴミがあるとは思わなかったし、とても悲しかったです。ポイ捨てをすると河川や水路に通じて海に流出して、生態系に甚大なダメージを与えたり、心も汚れたりしてしまいます。この現状とちゃんと向き合っていく必要があると思いました。

「塵も積もれば山となる」

私たちひとりひとりの力は微力でも、たくさんの人の思いがあれば地球を守ることができます。まずは一歩踏み出していきましょう！



<広幡地区（沖仲）>

広幡地区では、歩道脇の草の所にタバコが多く落ちていました。畑の近くの川やあぜ道には飲み物のゴミ（カン、ペットボトル、ビン）がありました。ほかにも農業で使う袋や工事などで使うカラーコーンの破片、ネジなども多く見られました。毎日私達が使う道にたくさんのゴミがあるということを知ることができました。きれいにしても、後日またゴミが落ちていることもあり、私達の活動を簡単にポイ捨てしてしまう人に知ってもらいたいと思いました。これからは、綺麗な地域を保つために地域全体で意識してもらおう工夫が必要だと感じました。



<広幡地区（成島）>

松ヶ根橋北側の河川敷では、空き缶やペットボトルなどの飲み物系のゴミ、タバコの吸い殻が多く落ちていました。また、大きいビニールシートのようなものが土に埋まっていた。このことから、昔に捨てたゴミが埋まってしまったと考えられます。松ヶ根橋周辺の歩道は、ガラスや、河川敷と同じくタバコの吸い殻が、多く落ちていました。歩きながらタバコを吸って、そのまま捨てる、または、車から投げ捨てるという人が多いのだらうと思いました。「ゴミはゴミ箱に」という常識的なことはしっかりとやってほしいと思います。みんなでこの“美しい自然”を守るために、地域の人や、六中学区を通る人にも心がけてほしいと感じました。これから地域の方々と協力し合いながら、定期的にゴミ拾い活動を行っていければと思います。



<塩井地区（宮井方面）>

宮井地区方面には、たばこの吸い殻や割れた瓶が道路沿いに多かったです。また、用水路にはお菓子のゴミなどが入ったビニール袋、缶やペットボトルなどの飲み物の容器が落ちていました。思ったよりたくさんのゴミが捨てられていて驚きました。ポイ捨てはたくさんの人に迷惑がかかると思います。例えば、飲みかけの缶やマスクなどは感染する恐れがあったり、タバコの吸い殻からは火事の原因になります。捨てた人は何も思わないかもしれませんが、捨てた物からいろいろな被害につながる恐れがあります。そういった被害が生まれないように、ポイ捨てや不法投棄をなくしていきたいと思いました。



<窪田地区>

窪田学区では、煙草の吸殻やペットボトル、缶、食品の包装などのゴミが落ちていました。思ったよりもゴミが多くて、時間が足りず、広い範囲でゴミ拾いできませんでした。車道と歩道を比べると“歩道のゴミ”が多かったので、車に乗っている人よりも、自転車に乗る人や歩いている人の中にポイ捨てをする人が多いと考えました。ゴミ箱をもっと設置したり呼びかけをしたりするなどの改善が必要だと思います。ポイ捨ては、“人”にも迷惑をかけますが、“自然界”にも影響を及ぼします。六中学区は自然が豊かなのでゴミで生態系を崩さないように、ポイ捨てを減らしたり、呼びかけをしたりして、六中のきれいな自然と美しい地球をより長く保っていきましょう。



<塩井地区（松ヶ根橋付近）>

ペットボトルなどのプラスチックや可燃ごみをはじめ、農作業用の袋、ハサミなどの文房具、家具などの大型のゴミなどがたくさん落ちていました。想像以上にゴミが多く、運搬用の車に収まりきれないほどでした。しかも、クリーン作戦後には、きれいにしたはずのところが、また元通りになっているという現状です。緑あふれるこの六中学区がこんなにも汚れていることに大きなショックを受けました。クリーン作戦を通して、僕たちが住む六中学区にも、さまざまな種類のゴミが落ちていることがわかりました。このような現状を改善するためにも、地域の方にも知ってもらい、松ヶ根橋の河川敷に限らず、六中学区全体で街をきれいにしていきたいです。



<塩井地区（バイパス付近南側）>

塩井地区のバイパス付近では、缶やタバコの吸い殻、マスク、ダンボールに入った日用品のゴミなどが捨てられていました。また、不燃物である鎖や再生利用できるペットボトルなどもありました。バイパス付近には、大きな道路やたくさんの田んぼがあります。ゴミが落ちていると、それらを利用している人を悲しませたり、迷惑をかけたりにしてしまいます。そういったことが減らす具体策として、外出時には袋を持っていき、自分が出したゴミを入れられるようにするなどを試してみようかどうか。ゴミを減らす・捨てないためにも、今自分にできることを考え、実行し、世界に誇れるきれいな六中学区にしていきたいです。



<塩井地区（バイパス付近北側）>

クリーン作戦を通して、塩井地区のバイパス近くに限らず、多くの地区にタバコが多く落ちていて感じました。このタバコは、20歳以下の方が落としているのではなく、大人の人たちによって落とされているのだとわかります。「ポイ捨てをせずに、しっかり持ち帰ってほしいな」と感じました。また、タバコに火がついていたら火災になるかもしれません。このように、あらゆるところに捨てられたゴミは、多くの人を悲しい気持ちにすると感じます。ゴミを落とすといく多くの方は、「めんどくさい」から始まると思います。このようなことを少なくしていくためにも、まずは自分から、小さなことから始めていきたいと思いました。



<六中クリーン作戦のまとめ>

今年のクリーン作戦でも、全校生が協力してたくさんのごみを拾うことができ、六中学区がきれいになったことに嬉しさを感じます。しかしそれと同時に、捨てられたゴミの多さを実感し、悲しくもなりました。今回集まったゴミを見て、六中生が気をつけるだけでは解決しない問題だと思いました。私たちは豊かな緑あふれる六中学区が大好きです。この素敵な景色を未来へと残していきたいです。そのためにも、この地域、そしてこの世界に住む一人ひとりが意識を持つことが大切だと思いました。

おわりに

六中では前年度に引き続き「SDGs」を柱にした生徒会活動を行ってきました。クリーン作戦やエコ回収活動、新聞エコバックの設置では地域の方にも協力していただき、六中学区全体でより良い未来に近づけていると実感しています。

SDGsを達成し、持続可能な未来を創るには、より多くの方の協力が必要だと思います。タイムリミットは2030年です。まずは、「SDGs」を知るところから。そして、自分の身のまわりから持続可能な未来を創るためにできることを始めてみませんか？

